

消防の動き

272号

平成5年10月

今年の夏は大きな災害が異常に多かった。特に、7月12日夜に発生した北海道南西沖地震については、地震直後に奥尻島を視察しただけに、その惨状が強く記憶に残っている。

この地震では、地震そのものによる被害もさることながら、地震に伴って発生した崖崩れ、津波、大火災などによる被害が大きかったのが特徴である。

津波の被害の大きかった青苗地区に行ってみると、高台までかなりの距離がある人家も多く、地震後直ちに避難を開始しなければ、数分後に襲ってきた津波から逃げることはとても出来なかつたろうということが良くわかる。この地区の人々も、10年前の日本海中部地震による津波を経験していなければ、避難開始が遅れて、もっと犠牲者が出ていたに違いない、と話していた。この種の災害の経験が、いざと言うときに如何にものを用うか、痛感した次第である。

シミュレーション訓練

特殊災害室長 小林 恭一

しかし、考えてみると、この種の災害に一生のうちに何度も遭うことはめずらしい。石油コンビナート等について考えてみても、事故防止対策が進み、そ

の発生率が減少してきているだけに、実際に小さな事故等に何度か遭遇することによってその対応方法を学ぶという、一種の体験主義ではもはや通用しないことは明らかである。また、施設が巨大になり、それを動かすシステムも複雑なものが増えてきているので、状況に応じて適切に判断する能力の必要性もますます増大してきている。

実際に災害に遭わなくても災害に遭ったのと同様の経験が出来、判断や対応行動等の訓練が出来るような施設、なるべく環境や状況変化をリアルに設定するいわゆる「シミュレーション訓練」のできる施設の設置の必要性がますます高くなってきている、と改めて思う。

も く じ

| | | |
|--------------------------------------|---------------------|----|
| ○巻頭言 | 特殊災害室長 | 1 |
| ○平成5年秋季全国火災予防運動の実施について | 子防課 | 2 |
| ○平成5年度「119番の日」記念行事実施要領について | 総務課 | 4 |
| ○大規模災害における事業所の防災組織の活動に関する調査研究の概要について | 防災課 | 5 |
| ○住民に対する応急手当の普及啓発のための方策について | 救急救助課 | 10 |
| ○救急・救助の概要について(速報) | 救急救助課 | 12 |
| ○北から南から 「みやじまと祭」 | 広島県宮島町消防本部 消防長 木谷 清 | 16 |